



Better documentation in the electric medical records would lead to an increased use of lower extremity venous ultrasound in the inpatient setting: A retrospective study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2018-05-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武地, 大維 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3339

論文審査の結果の要旨

電子カルテシステムにより情報の閲覧は簡単になったが、カルテ記載の不十分さが問題視されている。そこで申請者らは、救急外来における異常検査値に関する記載の質が入院主治医の診療における意思決定に影響を与えるという仮説を立て、D-ダイマー陽性所見に関するカルテの記載が入院後の下肢静脈超音波検査の施行に及ぼす影響を検討した。

対象は聖隷浜松病院の救急外来を受診した成人患者で、急性の血管閉塞疾患を除いた D-ダイマー検査が陽性の入院患者 1,710 名。カルテ記載のない群、検査値のみコピー&ペーストした群、鑑別診断まで記載した群に分類し、診療情報が救急医から入院主治医に効果的に伝達されたかについて評価した。

その結果、それぞれの群は対象の 74.15%、19.42%、6.43%であった。このうち 305 名の患者 (17.8%) が下肢静脈超音波検査を施行された。年齢、性別、入院中死亡及び基礎疾患を調整し、多変量ロジスティック解析を行ったところ、下肢静脈超音波検査は、鑑別診断まで記載した群だけでなく、検査値のみコピー&ペーストした群でも施行される傾向にあった。下肢静脈血栓症の最終診断に関連する因子では、検査値のみコピー&ペーストした群と鑑別診断まで記載した群のオッズ比は 3.03 ($P < 0.01$)、4.06 ($P < 0.01$) であり、検査値の異常に対して救急医が詳細なカルテ記載を行うことが入院後の診療に影響を与えることが示唆された。尚、D-ダイマー高値の場合には鑑別診断の記載に影響を及ぼし、入院中の死亡との関連が認められた。

審査委員会では、救急外来において患者の状態を詳細に記述することが、医療の質を向上させる可能性があることを、後ろ向き研究ではじめて明らかにした点を高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 宮嶋 裕明

副査 前川 真人

副査 岩城 孝行